

やっとようやく200号

九条はらまち

福島県南相馬市「はらまち九条の会」会報 No.200

2012(平成24)年10月5日(金)発行



■「はらまち九条の会」は7年前の2005年12月7日に発足し、この会報はその直後の12月24日に第1号を発行しました。以来、今号で200号になりますが、会員の皆様のご協力にあつく感謝申し上げます。郵送してもあまり反応はないので、少し寂しく思っています。

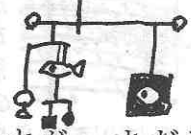
会員の皆さんへ

はらまち九条の会 会長 平田慶肇

暑く長い夏が過ぎたと思ったら、急に冷え込んで参りました。皆さんには原発事故の後遺症で、未だ心身共にお疲れのことと思います。

「はらまち九条の会」も政局の動きで、近い将来、改憲の問題が提起されることは必死で、特に忙しくなりそうです。ここで「総会」を開催して皆さんからのご意見を傾聴すべきところですが、まだ当地は非常時でもあり開催できませんので、お許しを頂きたいと思ひます。

尚、会計報告は会報などを通じて、その都度行いますので御了承下さい。御意見、御要望のある方は、ご遠慮なく近くの事務局員までお申し出下さいませよう、よろしくお願い致します。



3.11東日本大震災・原発事故・・・私はどう思う 19

「ゼネコンは原発で儲け、除染でもボロ儲けだ」

福島市・会員・Mさん

9月2日福島市での「原発事故鎮魂と希望の集会」に参加。こんな意見が出ていました。「原発は鉄とコンクリートの塊で、ゼネコン・鉄鋼・電気・銀行などが関わる産業の中心事業だ。反対運動があっても原発を再稼働させ国内では建設が難しいので輸出をしようとするのは大飯原発をショウウィンドウにして外国からの研修の受け入れ先にしようとしているからだ。」「国は飯舘村で除染の実験をしている。請負業者は大成建設、フジタ、間組など原発で儲けてきたゼネコンだが、また今度は除染事業でボロ儲けだ。」等々。



子どもたちの心にも深い傷が・・・

原町区・会員・Sさん

ふるさとの浪江町は、今イノシシとサルが人家に入っているようです。母の実家の牧場では、牛20頭が薬殺され埋められました。深い心の傷が人々に刻まる一方で、補償金で“働かずに食べる”生き方が、子どもたちの心に反映しないか、見えないところで人間の心が侵されることを、実感しています。

人生のすべて、孫の人生までを壊す原発事故

事務局 大浦祥見

幸いにも、南相馬市原町区の私のお店は営業再開ができましたが、事故の原発に最も近い「九条の会」事務局員として、南相馬市の様子を全国に訴える義務があると強く思っています。

最近、浪江町にお住まいだった年輩のご夫婦が店に来て、お話をお聞きいたしました。どうも兼業農家の方で、息子夫婦は地元のスーパーに勤めていて親と一緒に住んでいたそうです。

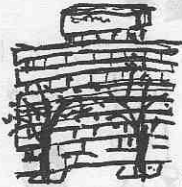
1年7か月たって、自分たちのこれからの生業の生活がまったく見通しが立たず、孫がいるので息子夫婦は、安定した働く場が決まらないまま、手探りで他の地で再建をしようと決めたそうです。原発事故さえなければ、孫らと一緒に生活は成り立って行けたのに、自宅と農地があっても息子夫婦らと別れた生活になると、自分たちの年金だけでは生活が成り立たず、生涯別々に引き裂かれることで、おじいさんには、もう涙も出ない様で、静かに話しているだけでした。

自然災害とまったく違う、放射能災害は、住まいや仕事、生活費、30年後、なにもかも同時に、まったく光の見えない不安が襲ってきます。なんでも、先の見えない不安に襲われるのが、他の災害にない”原発災害”の実態です。ひとたび事故が起これば、その人生すべてと孫の人生までの土台が失われます。何もできない、おじいさん、おばあさんの、悔しさが聞こえる様です。「人間と原発は、共存出来ない。もう原発は無くしてもらいたい」と、おじいさんの一言でした。

現状報告<通院の経験を通して> 事務局 早坂吉彦

私どもの住んでいる、南相馬市原町区は原発被災地30k圏内ということ、期限つきではありますが、現在のところ医療費は全額公費負担ということになっています。と書くと「うらやましい」という声が聞こえてきそうですが、実際住んでいる人間からすれば、可能ならば代わってほしいというのが正直なところです。

震災以前は、原町区には四つの病院（市立1・私立3）を中心に、大小の医院など十数の医療施設があって、医療過疎化に悩まされていた相双地区の中では、比較的恵まれた環境にありました。震災に続く原発事故発生で区内の様相は一変、医療機関ももちろん大混乱になりましたが、そのあたりの状況は、しばしばテレビ、新聞などで報道されましたので皆さんよく御存知のことだろうと思います。現在は区内の四病院とも診療を再開しており、その他の医院なども順次医師が戻って来ているようです。



私は以前から血圧が高めで、薬を処方してもらうため定期的にW病院（四病院の一つ）に通院しておりました。原発事故後、約半年自宅に戻ることができず、都内に滞留。その後自宅に戻って約1年経過しました。再びW病院に通院しておりますが、以前勤務していた医師はほとんどが戻って来ず、以前は診察していなかった理事長先生も診察室に入るようになりました。新たに勤務しはじめた医師は警戒区域の小高区の病院に勤務されていた方とか、同じく小高区で開業されていた先生でした。当時小高区には一歩も入れませんでしたから、やむをえない状況だったと思われまふ。1、2ヶ月に一度通院してみると、前におられた先生方はどこかに移られ、毎回のように入院の先生に診察してもらうことになり、向こうも大変でしょうが、こちらも落ち着きませぬし、こんな状態でもいいのか不安になります。

私のように、一応安定していて薬を処方してもらうだけならあまり支障はありませんが、手術、入院加療の必要な重篤な患者にとって区内のそれぞれの病院は入院が制限されていて（どの病院も医師、特に看護師の絶対的不足が主な理由ですが）、いざという時を考えると安心して区内に住むことが困難です。要するに健康体でなければ住んではいけない地区なのです。

W病院ではつい先日、浜通り30k圏外で他に競合施設のない、宮城県境の町に新しい病院を建設することになり起工式が行われたようです。病院の機能をすべてそちらに移し、現在の建物は2～5階に医療つき老人ホーム（従来、同病院経営の施設が浪江町にありました）として使用、1階を外来・健康診療に限って残すということです。新病院建設の理由は、医師、看護師の確保と、県内外の新規利用者の拡大。特に従来勤務していた若い看護師達は子供を30k圏外に避難させたままの人が多く、このまま原町区内で業務を続けるかぎり定員不足解消は困難と判断されたようです。残される形の患者には、何とも不安ばかりです。

にもかかわらずと言いましょか、だからだと言いましょか、開院している医療機関はどれも例外なく患者で混雑しています。予約制をとっているところでは1、2週間待ちが当たり前。午前中に受け付け済みの患者が午後一時過ぎてもまだ診察室にたどりつけない事態も多いと聞いています。要するに患者であふれています。



これは、前述しましたように、医療費が無料だという理由ばかり（もちろんそれもあるでしょう）ではなく、通院する必要がある年代の人口が増加しているのではないかと思います。市役所の広報などでは、登録住民の世帯数や人数が前月比で少し減少か、変わらないのに、実際に区内で生活している人は多分増加しています。例えば仮設住宅の入居者、災害復旧工事従事者の方々ですが、この方々は住民票は区内に移していないと思います。

この区内の医療状況を一刻も早く改善する必要があるはずですが、現実には、医師看護師不足を解消し、医療設備の充実で病院機能を向上させる妙案など無いに等しいと思われまふ。何せ、除染、除染とかけ声だけは聞こえますが、私達市民は何をどうしていいのかわからぬ、途方にくれるばかりで、一向に先の見通しがつけれませぬ。

<<事務局より>>

◆本当に猛暑の夏でした。会員の皆様、如何にお過ごしでしょう。



◆10月3日（水）、井上宅で事務局会を開き次のことを決定しました。

①総会は避難した会員がまだ多いので、もうしばらく様子を見る。会務報告・会計報告は次の会報で行う。

②映画「日本の青空」Ⅲの『渡されたバトン』の製作協力券100枚（1枚千円）を預かり希望者に販売する。

③毎年1月の成人式に新成人に配る『憲法』小冊子を500部増刷し、今後も配布を継続する。

④会報で、被災した南相馬市民の現状や問題点を全国に向け発信し続ける。

⑤事務局長の山崎は神奈川県に避難して活動に支障をきたしている、どなたかに代わって欲しいと何度も提案していますが、今回も否決されました。

（事務局員は冷たく？残酷で？人使いも荒いッス！）

◆11月3・4日は子どもの本九条の会9名を、7・8日は川崎市たかつ九条の会25名を引率し、南相馬市の被災の様子を見ていただき、仮設住宅を訪ねて原発からの避難者と懇談します。

◆この会報も200号になりました。ご協力に感謝申し上げます。南相馬市を離れて編集している、的外れのこと多いと思います。

（山崎）



<<「はらまち九条の会」事務局連絡先>>

- 会長：平田慶肇 TEL0244-24-1211 ○石田賢二 TEL0244-22-4037 ○早坂吉彦 TE0244-22-0326
- 会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL0244-22-7511・FAX26-0892
- 事務局長：山崎健一 TEL090-7527-5453 （避難先：〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延4-26-43 セトル溝ノ口505 Eメール：yamazakiken1@gmail.com） ○HP担当：大浦祥見 TE0244-22-0347 :佐藤喜彦 ○番場恵子